

The 2 Chome Times 平成30年4月号

NO1のプレミアムストリートをめざして



NO239.

2018・4・25

発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムズ4月号

編集：企画・商業振興部、編集長：芹澤邦明 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com

フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>

2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★第13回アート作品收藏式典

4月7日(土) ストリートミュージアム第13作目となる作品がセンター街2丁目のほぼ中央付近に收藏



されました。午前11時から收藏式典が行われ、收藏された作品の制作者の武田享恵先生、久元喜造神戸市長初め神戸市役所や商店街関係者、児童養護施設の方々、また「神戸・夢・未来号 沖縄」で大変お世話になっている全日本空輸(株)(ANA)など、多くの方々に御参加

頂きました。今回の作品は長さがある為地面に埋め込まれるとなかなかの迫力があります。最近、商店街を歩きかうお客様が足を止めて作品を覗き込む姿をよく見かけます。思えば阪神淡路大震災の翌年にストリートミュージアム構想の第一作として被害に遭われた方々への鎮魂の願いを込めた「讃太陽像」を設置してから22年、私達の街センター街2丁目にはストリートミュージアムを軸として美しく安心・安全な唯一無二の商店街にして行きたいと保安に清掃に組合のメンバー全員で努力を続けています。



★生田神社 春祭り 生田祭例祭・氏子奉幣祭 (4月14、15日)

昨年のタイムズ12月号で今年の生田神社の春祭りは三宮地区が12年振りに担当である事をお伝えしまし



た。その春祭りに担当地区の一人として参加しましたが、やはり頭では理解していても、氏子さんのお気持ちの熱さとか、祭りの伝統の重みを感じるのには、実際に参加したからなのだと思感しました。14日の神幸祭は午前中の好天からは想像もできないぐらい午後からの小雨と低温の中で子供神輿、女神輿、そして大人神輿と街を練り歩きましたが、途中からその天候ゆえに少し過酷な巡行になりました。最後尾で傘をさして歩いている筆者にとってさえ、身



体が小刻みに震えてきそうな寒さの中、足袋を履いて薄着で神輿を担いでいる方達は全身シャワーを浴びているぐらい雨でずぶ濡れになり、低温の中、身体を震わせながらそのお役目を立派に果たしておられました。「ご奉仕」の言葉に違わず、最後まで文句一つ溢さず、観ているこちらにも涙が出るぐらいに頑張っておられました。神輿の指導役の生田神社の権禰宜(ごんねぎ)である芦立さんが、その姿を見て号泣するぐらいでした。これは伝統に対する責任感もさることながら、春祭りを思いっきり楽しもうという気持ちがあるからこそ出来ることなのだと思います。もちろん、慰労会である直会(なおらい)が最高に盛り上がったのは言うまでもありません。来年は三宮地区の担当ではないですが、担当される地域の皆様がまた心からお祭りを楽しめればと感じました。



★「Thanks 神戸・おきなわANA/SNA」交流会で沖縄の皆さんとの親睦を図ってきました!

「KOBE 夢・未来号・沖縄」プロジェクトで毎年多大なるご協力を頂いている沖縄の皆様、ANAさん、ソラシドエアさんへ感謝する趣旨で、今年も4月10日から2泊3日の旅程で「第12回 Thanks 神戸・

おきなわ ANA/SNA」が開催され、神戸側からは 130 名超の皆様が参加されました。特に今年からは、互いの交流をより深めることを目的に沖縄事務局の皆様との協力体制のもと、那覇市のパシフィックホテル沖縄で「交流会」を共同開催し、富川副知事、上原元副知事、高良元副知事、城間那覇市長、上原糸満市長等々沖縄の皆様、ANA/SNA 関係者等々、双方で 270 名近い人々が親睦を深めました。神戸側主催者代表として久利会長、沖縄側主催者代表として嘉数沖縄事務局代表の両名のご挨拶に続き、富川副知事から温かいご挨拶、さらに神戸側代表として岡口副市長による乾杯のご発声により、賑々しく開宴しました。



「ハワイアンフラ KOHANA」、「エイサー団体那覇太鼓」の競演による、優しくまた力強い演舞パフォーマンスで盛り上がった後、「お楽しみ抽選会」では、神戸ゆかりの品々を沖縄の方々へ、また沖縄からは「泡盛」など沢山の景品を神戸の当選者にお持ち帰り頂きました。続いて 1 月の「KOBE 夢・未来号・沖縄」での「お別れコンサート」でもお世話になった「うたばす」の皆様によるライブコンサートが宴に花を添え、アンコールでは会場総立ちとなって沖縄の手踊り「カチャーシー」で盛大なクライマックスを迎えました。二日目は沖縄北部の本部（もとぶ）町を観光、エメラルドグリーンの海に囲まれた古宇利島（こうりじま）や、本部半島では本部港と並ぶ主要な港である運天港（うんてんこう）を訪れました。昼食後、世界遺産の今帰仁城跡（なきじんじょうあと）を散策、続く美ら海水族館ではジンベエザメの餌やりを見学する等、沖縄を満喫出来るツアーとなりました。このように毎年両県の絆と繋がりが深くなっており、これからもその発展を予感させる楽しい旅となりました。関係者の皆様にも篤く御礼申し上げます。



★トークイベント YATSU GA KURU vol.1 被災地にダンボールで挑んだ神紙男の雄弁

兵庫県のマスコットである「はばタン」を皆様も御存じだと思います。その作者の JUMBOw さんが中心となって、同じく JUMBOw さんが生みの親であるキャラクターの「わるタン」を使って「わるタンプロジェクト」を進めています。2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災で多くの子供達から笑顔が奪われましたが、まず東北の子供達に「笑顔を届けよう」、その想いから阪神淡路大震災を経験した私達が「神戸だからこそ出来る支援を！」と考え、このプロジェクトを発足させ、「わるタン」のイタズラを通して現在東北へ 6 年間毎月のように笑顔を届けているものです。その JUMBOw さんがたまたま宮城県石巻市で梱包資材を製造している今野氏の生み出したダンボールで制作されたランボルギーニならぬダンボルギーニの事を知り、今野氏に会いたいと思いついたのが今回のトークイベントの切っ掛けになりました。今野氏は「人口流失が続く地域に住む若者に、こんな面白いことをやっている大人が地元にいることを伝えなかった」そうです。今野氏の公演の後、お二人のトークショーになりましたが、クリエイター同士、興味の尽きない内容でした。この「わるタン」プロジェクトを続けておられる JUMBOw さんや、その仲間の皆様のご努力には本当に頭が下がります。



ピンクのダンボルギーニ

★編集後記

JUMBOw さんのトークイベントで石巻からわざわざ神戸に来られて講演をして頂いた今野英樹氏のお話はとてもユーモアがあり、それでいて印象に残る、時にはこちらの耳が痛くなるような内容に富んだものでした。今野氏が最も大切にしている信条は「探さない物は見つからない、求めなければ掴めない」という事だそうです。他にも「挑戦とはどれだけ自分を追い込めるかで、自分でハードルをあげること。『自己限定』は駄目」という言葉も印象的でした。普段、『自己限定』ばかりしている筆者にはもう耳が痛いこと。最後に面白いエピソードを聞かせて下さいました。お嬢様に「何時か本物のランボルギーニに乗せる」という約束をしながらも、やはり現実には厳しかったそうです。しかし、銀行が今野氏の仕事振りを信頼して無事入手でき、娘さんの小学校の卒業式の朝、秘密にしていた新車で学校まで送られたそうです。本当に豪快ですよ。



こちらは本物！